女性協議会

民放労連女性協第32回定期大会

女性の現状出し合い
決議採択、提出へ

6地連・支部連・22組合、33人参加

民放労連女性協議会第三十二回定期大会が、東京・主婦会館プラザエフで10月1日開催されました。参加者は六地連と東京支部連、二十二単組から本部を加えて三十三人でした。

冒頭、労連本部・斉藤議中央執行委員から、シカゴで行われたUNI（国際組合ネットワーク）の会議の模様や「楽しい組合活動をしましょう」という挨拶に始まり、議長に選出された静岡第一テレビ労組の植松真紀子さんの尽力もあって、終始、和やかな且つ活発な大会となりました。

女性協定期大会に参加した皆さん

大会では、課題別方針について、横書きになってリニューアルした議案書をもとに、各常任が「取り組み」を参加者に読んでもらいながら提案しましたが、若い現職の死亡報告もあり、「いのちと健康」を改めて見直すべきという意見も出されました。その他にも「放送のあり方」で、「食肉の安全CM」についても会場からいろいろな意見が出されました。また、今回初参加されたTNCプロジェクト労組・木下さんから、組合員の多くが派遣社員の女性であり、非常識な発言を繰り返す経営陣との交渉が大変困難である中でがんばっている様子が報告され、社員でもコース別などがまだまだ蔓延している現状についても話し合いました。そしてTNCプロジェクトの支援について、至急、決議することが確認されました。

また本当の「男女雇用平等法」を求めて現在審議されている06年の「男女雇用均等法」改正に向け、決議を提案し採択されました。みなさんの意見を反映し、さらによりよい決議にすべく議論中です。今後、厚生労働省への送付を行うと同時に女性協HPにアップする予定です。

また、議案書の校正が間に合わなかった部分もあり、修正版をHPにアップ予定ですが、その際に「いのちと健康」の項目追加も検討中ですので、是非と確認ください。同様に集約中のアンケートも議案書では回答した局のみになっていますので、まだまだ不備な状態です。ご自分の局を確認していただいて、校正したりない場合は早急にHPへご回答いただけると幸いです。

大会二日目は、8月1日に早稲田にオープンした「女たちの戦争と平和資料館」の見学会で、十二人が参加して行われました。年表と深いしわの刻まれたたくさんの女性たちの顔写真が掲げられた入り口から見渡せるほどの広さではありますが、展「法廷」の記録や、高校生が作成した慰安所マップなどの展示や、関連書籍、雑誌、文書、支援運動の記録まで幅広くあり、見ごたえがあります。

「女たちの戦争と平和資料館」の見学に参加した皆さん（入口で）

事務局をされているテレビプロデューサー池田恵理子さんによる丁寧な説明で、大変有意義な見学会となりました。主催であるVAWW-NETジャパンはNHKと国際戦犯裁判番組をめぐって闘っていますが、資料館にある生の女性たちの「思い」を前に、「従軍慰安婦」を歴史的に抹殺しようとする力に対し、断固として訴え続けていかなければならないと強く感じました。

有意義で楽しい大会を目指しますので、来年は是非もっと多くの方とお目にかかれるといいですね。

活動のあり方・視点、交流
民放の書記28人東京で

10月1、2日の二日間、東京で第十五回全国書記交流集会が行われた。

この交流集会には北の北海道、南の沖縄・鹿児島をはじめ各地から五地連、二十一労組の書記二十八人が参加し、労連本部からは井戸書記長、関東地連から鈴木書記長が出席した。

第一日目は、お台場のビッグサイト会議室を会場に、関東地連・鈴木書記長の歓迎挨拶の後、二つの講演が行われ、一つ目の講演は井戸書記長の「民放労連の当面する課題・放送の社会的責任を果たし、平和と公正を実現しよう」をテーマに。

規制緩和を押し進める新自由主義が蔓延する社会状況の危うさに触れながら、民放において増加し続ける劣悪な労働条件に対し、労働組合が掛ける規制、構内最賃闘争の重要性が強調された。

二つ目の講演は、新聞労連委員長でもある日本マスコミ文化情報会議の美浦議長で、共同通信の記者・デスクを長年務めてこられた経験をもとに話してもらった。とにかく忙しすぎる日々の中、接するのは競争相手と碍碍できない取材相手（警察、政治家）という環境で読者不在、視聴者不在に陥りがちになる。そのような中でも問題意識を持ち続ける人達がいる。組織の中で孤立する個人の良心の受け皿になれるのは、労働組合。読者、視聴者と向き合うメディアを目指そうと語り掛けられた。

二日目は会場をテレビ朝日労組の書記局へ移し、一日目にも行われた「しゃべり場」と銘打っての、書記局活動の現状とあり方について討論が引き続き行われ、様々な取り組みや悩みが話し合われた。

最後に社員食堂で昼食をとった後、テレビ朝日労組・加藤委員長の案内でテレビ朝日構内を見学して交流集会を終えた。

組合書記、労連・地連役員、講師の皆さん

女性委員会、同一賃金機会
均等・暴力問題など確認

UNI（国際組合ネットワーク）報告

今年8月、シカゴで開かれた「UNI（ユニオン・ネットワーク・インターナショナル）世界大会」について、前号に引き続き報告をする。

国際会議となるとどうしても、私たちの普段の活動と「別のこと」と感じるかもしれないが、世界中で同じような悩みを抱えているものである。

UNIにも民放労連と同じように「Youth（青年委員会）」や「Women（女性委員会）」が存在し、本大会に先立って会合を持った。

女性委員会では同一賃金機会均等、HIV、暴力問題を大きなテーマとして取り上げ、本大会の冒頭で女性委員会のバーバラ・イースタリング会長が次のように報告した。

『現在の政策は働く女性に対応せず、内容は薄い。途上国でも発展国でも貧困の差が広がっている。

何百万人の女性が貧困の状態にあり、人身売買がグローバル化の闇の側面にある。女性の職場が縮小され、外注やオフショア化が進んでいる。女性労働者も労働市場に入ってくることによって、ディーセント・ワーク（ふさわしい仕事）を求めていかなくてはならない。

ジェンダー・イクオリティー（性の平等）は、暴力の問題、肉体的精神的な問題に影を投げかけている。女性の尊厳のために努力を続けていきたい。同一賃金は現実のものになるよう、インフォーマルセクター（注）、フォーマルセクターと共に確認した。具体的時間枠内で具体的行動が必要であり、情報の透明性が必要。UNIの女性委員会では数年前からプログラムを実行しHIVや暴力の問題とも戦ってきた。生涯をかけてHIV防止、暴力防止の話を続けなくてはならないし、国際的な枠組みでも、団体交渉の場でもやっていかなくてはならない。暴力は女性のみならず、男性にとっても関わるキャンペーンで、暴力からの自由、精神的な暴力からの自由は非常に大切なこと。第二回UNI女性委員会大会には、七七カ国から五二八人の活動家、百十七の加盟組織から参加があった。女性の存在が意思決定の場に反映されるよう呼びかけたいと思う（発言抜粋）』。ここから女性大会の雰囲気が伝わってくると思う。

UNI会場にて、左から鴨藤・民放労連中執、美浦・新聞労連委員長、佐多・日放労中執

注＝インフォーマルセクター＝非公式部門。発展途上国にみられる経済活動において、公式に記録されない経済部門のこと。靴磨き・行商などといった職種から構成されている。